





黙示録 8 章は赤のラインの真ん中から左。

今日は、赤のラインの真ん中から左の後半部分、7つのラッパの裁きについて考えたいと思います。

7つのラッパの裁きは、最初の4つの裁きと後半の3つの裁きに分けられます。

今日は1回で、4つの裁きをあっさり見たいと思います。

## 黙示録 8 章

### 7 第一の御使いがラッパを吹いた。

すると、血の混じった雹（ひょう）と火が現れて、地に投げ込まれた。そして地の三分の一が焼かれ、木々の三分の一も焼かれ、すべての青草も焼かれてしまった。

陸地が 1/3 焼けてしまった。

### 8 第二の御使いがラッパを吹いた。

すると、火の燃えている大きな山のようなものが、海に投げ込まれた。

そして海の三分の一が血になった。

9 また、海の中にいる被造物で、いのちのあるものの三分の一が死に、船の三分の一が壊された。

次に直撃したのは海と、海の中の生き物と、海に浮かんでいる船舶。第2の裁きは海の領域。

### 10 第三の御使いがラッパを吹いた。

すると、天から、たいまつのように燃えている大きな星が落ちて来て、川の三分の一とその水源の上に落ちた。

11 この星の名は「苦（にが）よもぎ」と呼ばれ、水の三分の一は苦よもぎのようになった。

水が苦くなったので、その水のために多くの人々が死んだ。

今度は川が打たれた。

### 12 第四の御使いがラッパを吹いた。

すると太陽の三分の一と、月の三分の一、また星の三分の一が打たれたので、それらの三分の一は暗くなり、昼の三分の一は光を失い、夜も同じようになった。

何かの裁きで、おそらく大気がすりガラスのようになったのでしょう。

それで、地球に届く光の日光量が 1/3 暗くなった。

3つのポイントで、この裁きを解説しましょう。

1) 4つのラッパの裁きは自然界が被った裁き

第1のラッパは陸地。第2のラッパは海。第3のラッパは川。第4のラッパは大気への裁き。  
この4つは人間を直撃する裁きではない。人間に警告を与える裁きです。

## 2) いずれも1/3が被害を被るという制限のある裁き

そうであっても凄まじい裁きですが、この時代どんな事が行われていたかという、無実の人が平穩無事に暮らしている、そんな時代じゃないんです。今のウクライナのような状態。

この時には、聖書の神に気がついた人たちが、何千万人ではなく、おそらく億人の単位でイエス・キリストを信じ、救い主として受け入れて行きます。

ところが、彼らに対して史上最も残酷な弾圧を加える 大きな世界的スケールの組織が出て来ます。それは反キリストではないんですね。

億人の人間を始末してしまえる 巨大な世界的ネットワークを持つ組織。それは世界統一宗教です。その母体は、イスラム教でもユダヤ教でも新興宗教でもない。キリスト教会です。本物のキリスト教会ではありません。背教のキリスト教会です。

この教会の正体は黙示録17章につぶさに書かれていますが、携拳の時に地上に残された教会。まともな教会ではなく、聖書を額面通りに信じない偽クリスチャン・ニセ牧師で構成されている教会。歴史を見ても、クリスチャンたちを最も迫害し、死に追いやったのは、実は教会なんです。本物の教会ではありませんよ。教会を名乗っている人たちですね。ニセ教会が変質してしまい、いのちの無いキリスト教会が中心となった世界統一宗教が、本物の信者たちを大量虐殺する時代。

そんな時代に彼らの心が挫けなかった理由の1つは、自然界に次々起こる裁きを見て、「神は確かに私たちを覚えておられる」という励ましを受けたことでしょう。同時に、黙示録の預言通りの事が起こっているということで、今は迫害側に立っているけれど、心翻して変えられて行く人たちが起こされて来る。神はそれを期待して、この裁きがあるのです。

## 3) 7 第一の御使いがラッパを吹いた。すると、血の混じった雹と火が現れて、地に投げ込まれた。そして地の三分の一が焼かれ、木々の三分の一も焼かれ、すべての青草も焼かれてしまった。

雹と火で陸地が焼けるという裁きは1回出て来ました。モーセの時代、エジプトで行われたんです。モーセは、エジプトで奴隷になっているユダヤ人たちを自由にするためにエジプトから脱出させる、そのために立てられたリーダーです。エジプトから出ることを出エジプトと言い、その記録が出エジプト記で旧約聖書の前から2番目の書簡です。

エジプトは奴隷の労働力としてユダヤ人をこき使っていたので、「我々はこのから出て行きたいんです。神に言われたんです」と言われても、当時の王ファラオが「うん、それやったら行きなさい。」言うわけない。彼は「怠けたいから、そんなこと言ってんだろ」と、それまで以上にユダヤ人に辛く当たっていったので、神は固くなっていくファラオに10個の裁きを下しました。この裁き全部を受けて「もういい。おまえら出て行け！」それで、出エジプトが始まったのです。その10個の裁きの7番目が、火と雹がエジプトを直撃し、エジプトの青草がメチャクチャに破壊される裁きでした。

第1のラッパの裁きは黙示録の何番目の裁きでしょうか。

6つの封印の裁きがあって、第1のラッパは7番目の裁きなんです。

つまり“黙示録で起こっている出来事は、本物の出エジプトが間近に迫っていることを語っている”と読み取ることができるんですね。

かつてエジプトで奴隷状態だったユダヤ人が モーセによって解放されたように、神は艱難時代を通して、本当の意味でユダヤ人たちを自由にする。そして、縛られている多くの聖徒たちを自由にする。艱難時代はエジプトに下された10の裁きと同じで、この裁きがどんどん進んで行くということは、完全な解放がいよいよ近づいているんだ、というメッセージでもあるんですね。

次回は、今までとは別格の裁きです。7つのラッパの内の4つも酷いですよ。

だけど、比べものにならないほどの恐るべき裁きが出て来ます。

気が進まないのですが、聖書の預言なので縷々解説させていただきたいと思います。

またご覧ください。

よろしければ、チャンネル登録もお願いします。ではまた [あっさり黙示録](#)でお目にかかりましょう。

それまで皆さん、お元気でいてください。さよなら！

☆使用した聖書は「聖書 新改訳 2017」です。